

THE QUILTER OVERDRIVE 200

取扱説明書 Ver1.0



株式会社 サウンドハウス
〒286-0825 千葉県成田市新泉14-3
TEL: 0476(89)1111 FAX: 0476(89)2222
<http://www.soundhouse.co.jp> shop@soundhouse.co.jp

目次

安全上の注意	3
EMC/EMI 準拠	3
はじめに	4
製品仕様	4
開梱	5
各部の名称	6
フロントパネル	6
リアパネル	9
電源コネクタ	9
スピーカー接続端子	9
オプション	10
メンテナンス	10

安全上の注意



このラベルがある部分には手を触れないでください。感電の恐れがあります。



このラベルがある部分の操作、メンテナンスを行う場合は関連するマニュアルをお読みください。

1. 感電防止のため、カバーを開けないでください。
2. 本製品に液体がかからないよう、また雨中や湿度の高い場所で使用しないでください。
3. 通気口の前に設置しないでください。
4. ヒーター、ストーブなど、高温になる物の近くに設置しないでください。
5. アースピンをカットするなど、電源プラグを改造して接続しないでください。
6. 電源ケーブルは、踏まれたり挟まれたりすることのない場所に設置してください。
7. 付属品やアクセサリはメーカーから提供される物をお使いください。
8. 落雷の危険性がある場合や、長期間使用しない場合は、電源ケーブルをコンセントから抜いてください。
9. 本製品を廃棄する場合は、その市町村のルールに従ってください。
10. 通気性の良い場所に設置してください。
11. 本体を拭くときは乾いた布を使用してください。

EMC/EMI 準拠

注意：この製品は FCC 規則第 15 部に準拠しており、Class B digital device に認定されています。

本製品を使用すると高周波を発信する場合があります、設置場所および使用方法によっては、無線送信に有害な干渉を引き起こす可能性があります。ラジオやテレビの受信に干渉する場合は、環境に応じて使用するかどうかの判断、または下記の改善策をご検討ください。

- 受信アンテナの方向や位置を変える
- 装置と受信機の距離を離す
- 受信機が接続されているものとは別系統のコンセントに機器を接続する
- 販売店、またはテレビ・ラジオの技術者に相談する

はじめに

この度は、QUILTER OVERDRIVE 200 をご購入いただき、誠にありがとうございます。
OVERDRIVE 200 は、伝説の名機とよばれるアンプからインスピレーションを得たドライブ
セクションによる、多彩なオーバードライブトーンを提供するアンプです。本製品の性能を
最大限に発揮させ、末永くお使いいただくため、ご使用になる前にこの取扱説明書を必ず
お読みください。

製品仕様

出力	0 - 200W 4 - 8Ω
電源	AC100V 50 - 60Hz
消費電力	250W
入力	モノラルフォン端子、2M 入力インピーダンス、 2V ピーク
エフェクト・センド	モノラルフォン端子、1V フルスケール、600Ω
エフェクト・リターン	モノラルフォン端子、1V フルスケール、47k
ヘッドホン出力	ステレオミニ端子、4V ピーク
スピーカー1 出力	8Ω、200W 定格
スピーカー2 出力	4Ω、200W 定格
デュアルスピーカー1+2	各 8Ω、100W 定格
寸法	216mm 幅×147mm 奥行き×80mm 高さ
重量	1.8kg

開梱

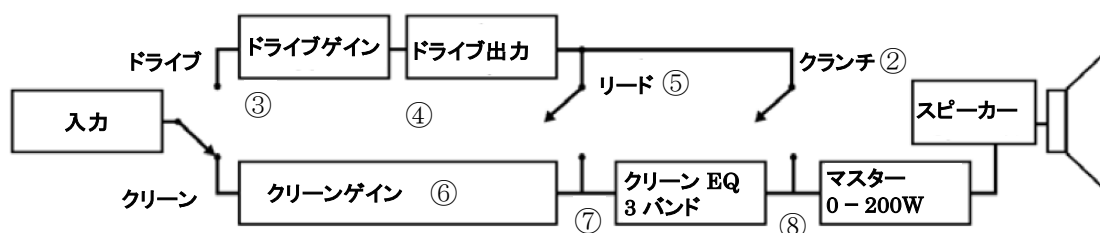
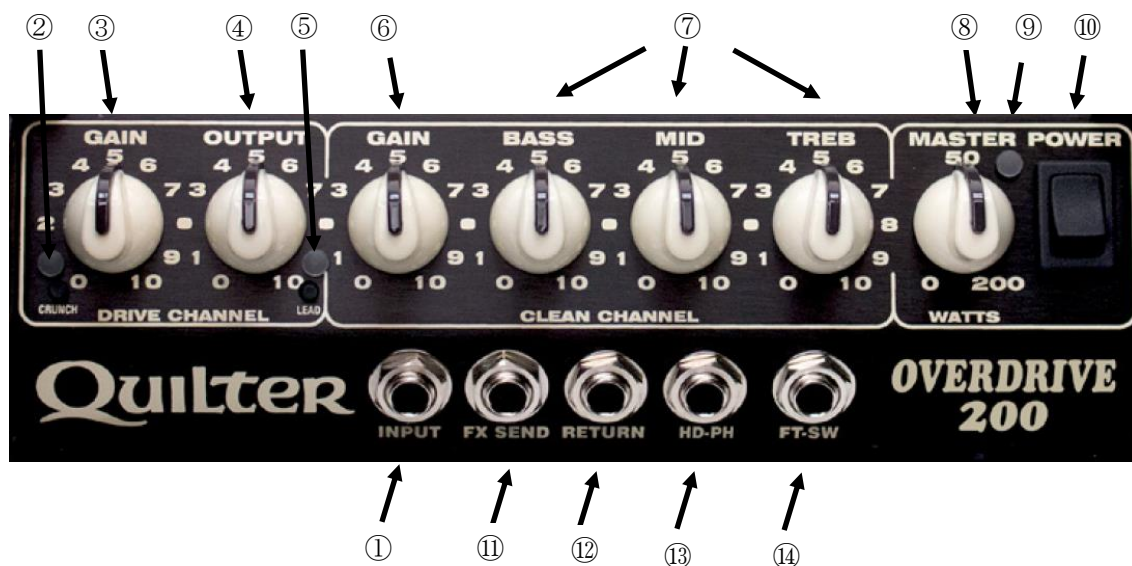
製品パッケージに次のアイテムが含まれていることをご確認ください。

1. QUILTER OVERDRIVE 200 本体
2. 電源ケーブル
3. 取扱説明書（本書）

輸送時の破損がないことを確認してください。万一破損が確認された場合は、配送業者と発送元に連絡ください。

製品の外箱と梱包材は保管しておいてください。輸送時に破損が生じた場合の証明として必要となることがあります。

各部の名称



信号経路：ドライブチャンネルとクリーンチャンネルを切り替えて使用します。最終出力はマスターボリュームにより調整できます。

電源を入れたとき出力はフットスイッチを使用している場合でも自動的にクリーンにセットされます。CLEAN GAIN (⑥) と 3-BAND EQ (⑦) を使用してギターのベースとなるサウンドをセットします。DRIVE GAIN (③) と OUTPUT (④) を使用してオーバードライブレベルをセットします。このときクリーンチャンネルはバイパスされます。

INPUT (①) : ハイ・インピーダンス入力端子です。ギターを接続します。

CLEAN CHANNEL : クリーンまたは少しオーバードライブをかけた演奏に使用します。
GAIN (⑥) によりクリーンゲインをセットします。

3 バンド EQ (⑦) : トーンコントロールを調整するとき、最初に **BASS**、**MID**、**TREBLE** 全て「5」の位置に合わせてください。この設定はほとんどの楽器に適用できます。

- **BASS** : 0～8 : 低域を加えます。
8～10 : 高域と低域の間にコントラストを加えます。
- **MID** : ギターの中音域をカット及びブーストします。
5 以下 : しっかりとした明瞭なトーンでリズムプレイに使用される際立ちのある中域を作ります。
5 以上 : オーバードライブが作りやすい中域をブーストします。
- **TREBLE** : 高域を徐々に加えていきます。

これらの設定は全て互いに強く影響し合います。それぞれがトーンに対してどのように作用するか理解するためにコントロールの全領域に渡ってテストすることをお勧めします。

MASTER : アンプ内のコントローラーで作った音質を変えずに全体の音量を調整します。同じ様な出力を持つチューブアンプと比較するため、分かりやすいように相対出力 (0-200W) がパネルにプリントされています。実際の出力はスピーカー特性に依存するため、**MASTER** のこの表示 (0-200W) は一種のガイダンス的な役割を果たします。

DRIVE CHANNEL : 2 種類のボイス、**CRUNCH (②)** と **LEAD (⑤)** を個別に、または同時に選択することができます。選択したボイスに対応するスイッチ上の **LED** が点灯します。このボイスはフットスイッチを使用して選択することもできます。

GAIN (③) はオーバードライブの調整、**OUTPUT (④)** はクリーンチャンネルに送るボリュームです。ドライブチャンネルを使用しているとき、クリーンゲインはバイパスされます。

CRUNCH (②) : ギター信号がドライブステージに入る前に中域を控えめにし、最終段では低域と高域を強調します。信号はクリーンチャンネル **EQ** とマスターの間に入り、多くのクラシック・アメリカ製アンプにある自然なオーバードライブが得られます。ドライブ **OUTPUT (④)** を 7 以上にセットすると、レイヤード・オーバードライブ・エフェクトを作ります。

LEAD (⑤) : ドライブステージにおいて中域を強調します。ドライブ出力は3バンド **EQ** の前に入るため、歪みのトーンを調整することができます。これにより、よりアグレッシブなオーバードライブが得られ、好みに合わせてサウンドをシェイプアップすることができます。
CRUNCH+LEAD : 両方のスイッチをオンにすると、最強のリードゲインが得られます。3バンド **EQ** の後にクリーンチャンネルに入るため、**LEAD** を使用したときと同じ自然なオーバードライブが得られます。

FX SEND (⑪) : いろいろなペダルを組み合わせることでサウンドを作ること、ギター演奏の面白さの1つでもあります。**OVERDRIVE 200** はペダルの特性をうまく引き出せるように設計されています。

外部エフェクトに対しては1Vの信号を送ります。コーラス、ディレイ、リバーブなどのペダルをここに繋いで最適なサウンドを作ることができます。これらのエフェクトはオーバードライブを含むアンプ全体のサウンドにそのまま重ねることができます。例えば、まずオーバードライブをかけ、その上にコーラスや連続したクリーンなディレイを重ねます。エフェクターチェーンの最終的な信号は**RETURN (⑫)** に戻ってきます。この端子にケーブルを繋ぐと、内部のスルー接続が切れて、エフェクターを通した信号がアンプに入力されます。歪みやオーバードライブペダルは、ギターとアンプ入力の間に入れて使用してください。それにより、色づけされたサウンドをアンプから出力します。

ヘッドホン端子 (⑬) : ヘッドホンを接続してモニターします。音量が大きいため、**Master** ボリュームは半分くらいにして聴くようにしてください。フルレンジヘッドホンは標準のギタースピーカーより高音が強調されてしまうため、**TREB** コントロールを使用して聴きやすい音に調整してください。

ヘッドホン端子にヘッドホンを接続しても、スピーカーはミュートされません。

フットスイッチ (⑭) : フットスイッチを接続します。

電源ランプ (⑨) : アンプの電源がオンのとき点灯します。

電源スイッチ (⑩) : アンプの電源を入れます。

リアパネル

電源コネクター



付属の電源ケーブルを接続します。感電を防止するため、アース線は必ずアース端子に接続してください。

スピーカー接続端子



8Ω または 16Ω スピーカーを下段 8-OHMS 端子に接続します。

4Ω スピーカーは上段 4-OHMS 端子に接続してください。

8Ω スピーカーを 2 台、または異なるインピーダンスのスピーカーを 1 台ずつ接続する場合、2 つの端子にそれぞれスピーカーを接続してください。パワーは 2 台のスピーカーに分割されます。本アンプでは、インピーダンスミスマッチにより音質が変わることはありません。

注意：本アンプに許容入力 15 - 30W 程度と低いヴォリュームスピーカーなどを接続する場合、安全に使用するために、MASTER ボリュームを十分絞ってから徐々に上げるようにしてください。

オプション

Quilter Labs 専用キャリングケース（別売）を使用すると、Quilter 製品を収納して安全に持ち運ぶことができます。



メンテナンス

症状	原因と対策
電源が入らない	電源ケーブルがしっかりとコンセントに接続されているか チェックする
アンプの電源が落ちて直ぐに立ち 上がる。	アンプが過熱しサーマルプロテクションが働いた可能性 がある MASTER ボリュームを 30%まで下げる 直射日光を避けて設置する 壁や他の機材と十分な距離を置いて設置する
音が出ない	MASTER ボリュームと GAIN がゼロになっていない ことを確認する ギターケーブルがアンプとギター両端にしっかりと接続 されているか確認する ギターケーブルを交換してみる スピーカーケーブルがスピーカー端子にしっかりと接続 されているか確認する
音が低い、または変動する	ペダルとアンプと切り分けるため、FX Loop に接続した ペダルを取り外し、ギターを直接アンプに接続する ペダルの接続、電源、バッテリーをチェックする

バックグラウンド・ハムノイズが出る	ギターケーブルがしっかりと接続されているかチェックする ギターケーブルを交換する。シールドケーブルを使用する アンプ、ペダルは同じコンセントに接続する ギターのボリュームを 0 にするとハムノイズが消える場合 シングルコイルピックアップは特に調光式ライト、ネオンライトなどのハムノイズを拾いやすい 「フェーズスイッチ」ピックアップ・セレクターがある場合、試してみる ギター・シールドをチェックする 弱いブーンという音がでる場合、アースが接続されていない可能性がある。必ずアースを接続する
過度のノイズ	GAIN の上げ過ぎ。 ケーブル、ギター、ペダルなどの接続をチェックする 繰り返し発生するノイズはスマートフォンから出ている可能性がある。スマートフォンをアンプやギターから遠ざける
アンプの音がどの音量でも歪む	ヘッドホンで聴いたときに問題なければスピーカーの可能性もある MASTER ボリュームを下げる エフェクトループに接続されている機材を外してギターを直接アンプに接続する
クリーントーンが欲しいのに過剰なオーバードライブがかかる	GAIN を下げて MASTER を上げる JAZZ や SURF ボイスを試してみる

次の事象が発生した場合はコンセントから電源ケーブルを抜いて直ちに販売代理店にご相談ください。

- ・ アンプ、または電源ケーブルから煙りが出た
- ・ アンプを誤って落としてしまった
- ・ アンプに液体をこぼしてしまった
- ・ アンプ内部の部品が外れたような音がする

Quilter Overdrive 200 Head Manual
P/N 000818 Rev. A
www.quilterlabs.com
Copyright 2017

